

難民保護と帰還を再考する： なぜルワンダ虐殺後、難民は帰還しないのか？

日時 2019年2月27日(水) 16:00～20:40 (入場15:30～)

会場 立教大学池袋キャンパス 5号館 教室5122 (定員380名)

主催 立教大学21世紀社会デザイン研究科・科学研究基盤(B)「人間の安全保障から考える難民保護と帰還の課題:世界に拡散したルワンダ難民の事例」

第一部

16:00

～

17:50

難民保護、帰還、人道支援について再考する
～難民研究の母・バーバラさんのレガシーを受け継いで～

●ハレル・ボンド氏のドキュメンタリー

“Barbara Harrell-Bond: A life not ordinary” 鑑賞(60分)
(英語;日本語字幕なし)

●ハレル・ボンド氏のレガシーに関するトーク(40分)



第二部

18:00

～

20:40

なぜルワンダ難民は帰還しないのか
～1994年の虐殺と罪を考察する～

●講演: ジュディ・レヴァー(ジャーナリスト)
(100分)(逐次通訳を含む)

●討論と質疑応答

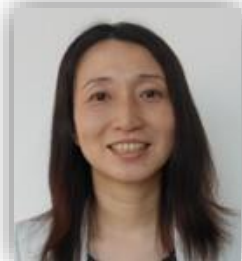


討論者



小泉康一

大東文化大学教授



杉木明子

慶應義塾大学教授



高橋宗瑠

立教大学専任講師



米川正子

立教大学特定課題研究員

セミナーの内容:

第一部: 2017年末現在、紛争や迫害により、世界で移動を強いられた人の数は5年連続で増加した。大量難民の動きに伴って、日本においても難民への関心は高まったが、難民がどのような問題に直面し、また国際社会に何を求めているのか十分に理解されていない。その理解を深めるために、1982年に世界で初めて大学に難民研究所を創設し、難民研究に幅広く貢献した英オックスフォード大学名誉教授の故バーバラ・ハレル・ボンド氏のレガシーを再考する。

第二部: 1994年に起きたルワンダ虐殺から、今年2019年でちょうど25年が経った。ルワンダは経済開発のモデルとして称賛されている一方で、虐殺中、またその後、国外に逃亡した大勢の難民が未だに帰還していない。なぜなのか。レヴァーは、難民など200人への聞き取り調査と、虐殺加害者を起訴したルワンダ国際刑事裁判所(ICTR)の機密文書をもとに、難民の帰還を妨げている主な要因である、虐殺前・中・後に起きたことを話す。

参加登録は
こちらから

<https://docs.google.com/forms/d/1uE8onf-NsknutZPQbR7g8f6Ue1ZXhw10tOORSOufXyc/edit>

